

夫婦で働く / 女性が働く 家庭医診療所

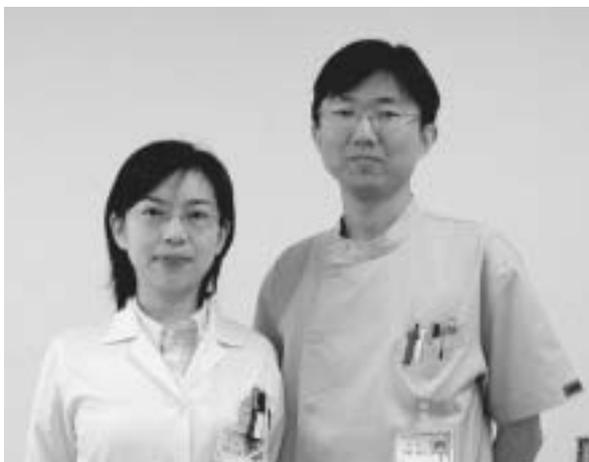
今回の執筆者：守屋 文香

医療法人社団 カレス サッポロ 家庭医療クリニック 西岡
〒062-0034 札幌市豊平区西岡4条13丁目17-1

今回の執筆者として私にお声がかかったのは、家庭医診療所で夫婦とも働いていること、それから女性であること、が理由でありました。現在医学生に女性の占める割合は増える一方とか。自然、私たちのように診療所を夫婦でという方々も増えてくるでしょう。そんな方々の参考になる...かどうかわかりませんが、こんな形の診療所もあるんだと思って読んで頂ければ幸いです。

夫婦で診療所勤務することになった経緯

私たちは医療法人社団カレスアライアンス・北海道家庭医療学センターの家庭医療学専門医コースでの研修を受けた1期生と2期生で、研修中に結婚したわけですが、現在の診療所を開設するというお話しがあり、研修修了後の平成13年6月に開院した診療所に勤務することになりました。診療所地域は札幌市の南方に位置する緑に囲まれた閑



筆者 (左) と守屋章成医師 (兼事務長)

静な住宅街で、私たち夫婦は診療所のすぐ隣に住んでいます。

女性が診療所で働くこと

診療所で働くことについて女性ということがどう影響するか？ 今までの経験からは、メリットとを感じる機会が多かったように思います。

私自身は女性と言うことを特別意識して診療をしているわけではありませんが、女性の患者さんの中には「女医希望」という方も（多くはありませんが）おられ、そんなときはこの診療所に女性がいて良かったと思います（女医という言い方自体はあまり好きではありませんが）。乳癌の手術後で診察されるのがいやで具合が悪くても我慢していたという方が、「女医先生がいるって聞いたから来た」といってかかってくださり、次に来られた時に「かかれるところがあるから安心していきます」と言ってくださった時には、本当に嬉しく思いました。

何回か夫の方にかかっていた女性がたまたま私にかかった時、更年期障害の症状を「男の先生には言えなかったんだけど...同性のほうが良く分かってくれると思って」と相談されたりすることもあります。私はまだ更年期を経験してはいないので、感覚的な理解度は男性と大差ないのだけれどと思いつつ、わかってほしいという気持ちに応えたいとその方のお気持ちを想像しながら話を聞きました。

プライマリケアの一要素の「近接性」には、

“性別”も入ると考えて良いのではないかと思います。性別ということでは、男性でも同じ事が言えると思いますが、今までの医者（特に内科の診療所）に男性が多かったために女性医師が貴重なのでしょう。世の女性達のために、より多くの女性医師が診療所で働くことを切に希望します！

夫婦で診療所で働くこと

性別も近接性と考えると、男女が揃う(?)夫婦が診療所で働くことは、患者さんにとってメリットとも考えられます。

一方働く側には、在宅・外来患者さんに時間外も24時間対応する体制をとっている診療所では、夫婦だけでは思うように休みも取れないのがつらいところです。研修医時代には複数の仲間で1週間交代で待機体制をとっていた私たちからすると気の休まる間がない、映画にもおいそれと行けなくなったつらい状況です。それでもまだ二人いるから、一人ずつならば適当に休めます。それに比べれば一般的な診療所では多くの先生方が一人で診療していらっしゃるわけで、本当に頭の下がる思いです。

診療所を一人で切り盛りすることは本当に大変なことだと思います。滅私奉公の気持ちがなければやっていけないと思います。医師自身のQOLも大切に、長い目で見て診療所が良いサービスを提供し続けることができるように、グループ診療という形が増えるといいのではないかと考えています。私たちも、夫婦だけではなく他の家庭医

と共同して働けるのが理想です。

他のメリットとしては、患者さんから親しみを感じてもらえることがある、ということでしょうか。患者さんが診療の中で満足するのに、「私はこの医者のことをよく知っている」という要素があるそうですが、「この医者の家族を知っている」ということが医者の人間的な側面を垣間見るように思えるのではなどと(良い方に)解釈しています。これは、家庭医が診療地域に住むことでも同じ効果はかと思いますが、同じ診療所にいるとより分かりやすいような気がします。

家庭円満で仕事もうまくいく!?

地域密着、患者密着の診療所では、自分が診療に色濃く反映するのではと最近感じます。自分のもつ臨床能力、家庭医としての理念・態度といったものから、もっと原始的な体調・気分、さらに自分の考え方・価値観が患者さんに影響を与えていると思うこともあります。

そのなかで、自分が夫婦の関係をどのように築いてきているか、夫婦家族に葛藤する患者さんの気持ちを想像できるか、場合によってはロールモデルになれるか、なども私のテーマの一部です。それだけであれば違う職場・職業でも同じですが、同じ職場で働いていけば夫婦の関係がスタッフにも患者さんにも伝わります。仕事と私生活が切っても切り離せない関係、窮屈な反面、両者のバランスをうまくとりながらハッピーに生活していくととてもよい道しるべなのかもしれません。



クリニック全景